

## ユーザーストーリー

### — キンバが叶えてくれたこと（下） —

#### すべてはお子様のために

Y様はお子様の主治医の先生より、「脳の海馬の発達が悪く立体感覚に弱いかもしれない。だからこそ一生懸命、指先をしっかり動かし、色々な経験をさせてあげて脳の発達を促してあげましょう。ある程度克服できる力はある。」と強くアドバイスを受けたそうです。

それからY様は脳への良い刺激をいかに与えるかという目標だけを考えて、家では指先を動かすピアノ訓練をし、できるだけ外出の機会を増やし、自然に触れる、コンサートや演劇に行くことを実行したそうです。

#### 伝えたいこと

今、同じような状況に対峙しているご家族に伝えたいことをお話いただきました。



NICU で生まれた子供は、病院の天井を見て過ごす。もし外出が可能なら、思い切って外にでることを勧めたい。それは子供の脳の発達に、心の豊かさを育むのに必要なことである。

また、その時期も大事だと思う。もっと大きくなって強くなってから外に出よう、ではなく、小さい頃こそが大事。難病の子供を外に出すのは大冒険だけど、得るものは必ずある。それは目に見えないだけ。子供の人生でいつか実る。

バギーは子供の体を単に乗せ、運ぶものではない。脳とこころの成長を促すツールだと思う。

ゆえに、バギーの頑丈さは重要で、絶対的な安心につながる。



#### 豊かな人生を育む

Y様ご家族にとって、キンバは単なる移動手段だけではなく、脳神経を発達させる重要なツールだったとY様は言います。今、お子様は小学6年生になり、学校の運動会では騎馬戦や組体操にも参加することができ、乗馬も習っているそうです。

補装具には「失われた身体機能を補う」という必須の役割があります。しかしそれ以上に重要な役割が、ユーザーの皆様の人生をいかに豊かで意義あるものにするかであるとオットーボックは考えています。



1才 公園散歩



1才 テーマパークで

Y様とご家族の大切な想いと経験を、是非皆様にも共有したいと思い、今回の記事となりました。

Y様 素晴らしいお話ありがとうございました。